

ディレクターの現場での対応について

2008年4月26日（土）から「デュプリケートブリッジの規則 2007年版」が施行されます。施行日から当分の間、試合開始前に以下の点をアナウンスするようにお願いします。

1. 不十分なビッドをディレクターを呼ぶ前に勝手に言い直すと、次の人が不十分なビッドを受け入れない場合、言い直したコールが成立して、コールによってはパートナーが常にパスになることがあります。不十分なビッドの規定自体が大幅に変更になっていますので、不十分なビッドが起こったらすぐにディレクターをお呼びください。
2. オークション中またはプレイ中いつでも、対戦相手のシステムカードを見ることができるようになりました。ただし、オークション中に特定のビッドだけ相手のシステムカードを見たりすると、パートナーに不当な情報が伝わる場合があります。不当な情報が伝わらないようにご注意ください。
また、パスが3回続いてオークションが終わり、オープニングリードが表向きになるまでの間（説明期間と呼びます）、ディクレアラー側になったプレイヤーは自分のシステムカードを見ることができます。自分たちの取り決めを確認して、説明の間違ひがあればここで訂正してください。
3. リードしたスートにフォローしなかった場合、ディフェンダー同士でリボークの可能性について尋ねることができるようになりました（尋ね方で不当な情報が伝わる場合があります。不当な情報が伝わらないようにご注意ください）。また、リボークが起こったときの調整のトリック数が一部変更になっています。
4. プレイしたトリックを伏せるときに縦・横の向きを間違えて置いた場合、誰でも間違いを指摘できるようになりました。ただし、ディクレアラーはトリックをさかのぼって間違いを指摘できますが、ダミーとディフェンダーは次のトリックのリードが出た時点で指摘できなくなります。

他にもプレイヤーがあらかじめ知っておいた方がよい項目がいくつかありますが、上記の4点はよく起こる上に、知らないとプレイヤーが不利になる可能性がありますから、事前にアナウンスするようにしてください。

以下、注意すべき事項を記載します。

ペナルティ→調整

2007年規則では「ペナルティ」という言葉は「ペナルティカード」、「規律罰則 (Disciplinary Penalty、第91条)」、「手順上のペナルティ (Procedural Penalty、第90条)」の3つの言葉でしか使われなくなりました。

これまでリボークが起こったときにトリックを反則側から非反則側へ移すような場合、「2トリックのペナルティ」のように言っていましたが、2007年規則では「調整」

という言葉を使います。（「2トリック NS 側に移します」などと説明すると良いと思います）

LHO, RHO

2007年規則から「左側の対戦相手」、「右側の対戦相手」をそれぞれ「LHO (Left Hand Opponent)」、「RHO (Right Hand Opponent)」と表記するようになりました。ただ、プレイヤーに"LHO"、"RHO"と言っても、ほとんどの方は理解できないと思うので、NSEWを直接言うか、「左側（の対戦相手）」、「右側（の対戦相手）」、「次の人」などと言うようにしてください。

不十分なビッド

オークション経過から明かで不要な場合もありますが、ディレクターは反則者になぜ不十分なビッドをしたかを確認します。不当な情報が伝わりますからテーブルから離れて尋ねるようにします。

例：1♣-(1♠)-1♥となった場合、1♠オーバーコールに気づかず1♥とビッドした場合がほとんどでしょうが、2人のビッドに気づかず1♥オープンした場合もあるかもしれません。その場合、下記の3の「同じ意味を持つコール」がまったく異なったものになります。

1. LHO は不十分なビッドを受け入れることができます。受け入れた場合と LHO がコールした場合は、調整なくオークションが進行します。
2. 同じデノミネーションで最低の十分な代に言い直した場合、不十分なビッドと言い直したビッドがどちらもアーティフィシアルでないと ディレクターが判断した場合はそれ以上の調整はありません。
3. 不十分なビッドと同じ意味を持つコールか、より詳細な意味を持つコールに訂正されたら ディレクターが判断した場合はこれ以上の調整はありません。コールにはパスやダブル、リダブルも含まれます。
4. それ以外の十分なビッドやパスに言い直した場合はパートナーは常にパスになります。

不十分なビッド自体がアーティフィシアルである場合は"2"は省略できますが(最低の十分な代に直してもパートナーは常にパスになると説明します)、それ以外は上記の4点は少なくとも説明する必要があります(他にもダブルやさらに不十分なビッドに言い換えたときの規定や調整スコアの規定が定められています)。ディレクターとして注意しないといけないことは、上記の説明、特に3は具体例は言わないようにすることです。「同じ意味を持つコール」や「より詳細な意味を持つコール」はパートナー間で異なります。どのようなコールが「同じ意味」や「より詳細な意味」になるかは反則したプレイヤーが考え、それを認めるかどうかをディレクターが判断します(プレイヤーはディレクターの説明を完全に理解できないかもしれません。ヒントを与える程度なら許されるでしょう)。もしどうしても理解できないようなら、反則者をテーブルから離して、2人の取り決めを確認し、具体的にどのコールならパートナーがパスにならないか例を挙げても良いでしょう。